夕刊
磐城新聞
十月四日發行
定價 一ヶ月金六十五錢（郵税拾五錢）
廣告料金 [illegible]
編輯兼發行人 [illegible]
發行所 磐城新聞社
〔祭日翌日休刊〕

家庭　生活と簡易保險

簡易保險記念日に際して

平郵便局

（3）

即ち東北六縣及新潟縣を合して、件數約二百八十餘萬件、保險金額約三億二千餘萬圓であり。東北及新潟地方の人々がこれだけの財産を用意してゐることは、又實に心強い次第である。然し普及率では、千人當り契約件數三百十六件、保險金三萬六千四百圓程度で、全國平均と比較して、まだ件數に於て約十五件、保險金額で凡そ七千四、五百圓位の不足である。經濟的に殊に惠まれて居らぬ我が東北地方の人々こそ反つて生活の安定を期する爲に、奮發してもつと〱加入せねばならぬことゝ深く感ぜられる

保險支拂狀況

それから、死亡や契約滿期の爲め支拂ふ金額も年々著しく增加して、九年度の支拂は全國四十七萬四百餘件の支拂金額五千四百五十四萬圓、又創始以來の累計は凡そ二百六十二萬餘件、支拂金額二億七千萬圓と云ふ大きい金額が支拂はれて居り、各家庭の主なる稼手の死亡や老衰によつて、一家の收入力が減り、困つたとき、どんなに役に立つて居るかゞわかる。我が國一世帶の構成人員を五人とすると、昨年度でこの保險金支拂によつて利益を受けたものは、凡そ二百萬人以上で、また創業以來の累計は實に千三百萬人に上つてゐる譯である。仙臺遞信局管内の昨年度の支拂は、件數五萬一千餘件、保險金額約五百三十萬圓である

保險料の割戻狀況

簡易保險は、營利事業でない爲、經營上に餘裕が出來れば、みな加入者に還すことゝなつてゐる。これが長期繼續者に對する保險料の割戻（事業の基礎確立と共に大正十一年九月より設定されたもので、保險金や還付金を支拂ふとき同時に支拂はれる）であるが、昨年度に支拂はれた額は件數約二十九萬三千件、金額九百十三萬二千圓で、大正十一年九月以降では、件數百七十六萬件、金額凡そ三千五百萬圓に上つて居り、こんな大きな金が前に述べた保險金額に加へられて拂はれて居り、益々簡易保險を利益なものにしてゐる

三、制度の内容は？

イ、簡易保險には成人保險と小兒保險とあり

ロ、加入年齡は、成人保險は滿十二歲から六十歲迄小兒保險は滿三歲から十二歲未滿である。だからつまり滿三歲から六十歲までの者で健康の人ならば誰でも加入出來る譯けである

ハ、加入の際は醫師の診斷が要らぬ

ニ、保險料の拂込は月掛けが原則で毎月郵便局から集金に廻る

應募規定

□歌詞　郷土小唄としてローカルカラーの豊かなるもの
□用紙　四百字詰半紙判原稿用紙
□篇數　一人一篇限りとす
□姓名　住所姓名、或は筆名、は封書のみに自署し原稿には絶對に附記せざること
□宛名　平町田町一六磐城新聞社「七夕祭」歌詞募集係
□締切　十月末日
□發表　十一月下旬

平音頭「七夕祭」歌詞再募集

賞金貳拾圓（入選一篇）
賞金拾圓（佳作五選）

選者（イロハ順）
新妻久滿夫
小山田滋
渡邊何鳴
高久晚霞
白木英尾

版權其他一切は本社所有となす。

童謠時評

（3）

島田忠夫

柴野民三氏（童魚・三輯）

『濱の晚』といふ一篇をこゝでは拾ふ。柴野氏は、おそらく山氣のない、地味な童謠詩人のひとりだ。僕はかつて、柴野氏の書いた童謠論といふものを讀まないこの素朴な詩人には、おそらくそういふものが不要なのである

濱の晚

濱で兄さん
ハモニカ吹いた
風にちぎれて
きれぎれ鳴つた

沖の燈は
さみしい燈
ひとりふたりと
歸つて行つた

砂は冷てた
掬つてみたら
指のすきから
こぼれていつた

この何の變哲もない、詩の巧まない中に、淡々とした盡きぬ滋味を見出さなくてはならぬ。『童魚』の同人らが『チチノキ』と餘り變らぬ香をのみ發散してる中に柴野氏だけが、ひとり持味を湛へてゐる。見るべきことである

古村徹三氏（生誕・十三輯）

七篇の中から、『繭のお山』を拔く

そよ風

小菅正路

そよ風ほうほう
野山を通るよ
堤の芒も
そよ〱ゆれるよ

柿は黃ばんだ
野山も里も
もづが鳴いてる
それ風ほうほう
野山を通るよ

選擧肅正

珠雲　小野務平

朋黨誤中正
世皆趨利名
肅淸何日是
惡魂尙橫行

秋

水戸市柵町二一　長谷川武士

秋かぜや川を距てゝ里の家
秋風も凪ぎて入日に映ゆる我が家
秋かぜ寒く木魚に悲し山の寺
君偲ぶ只靜かなる秋の雨
秋寒く木魚に淋し寺の森
畦上を行く脚袢に滲むなだれ水
土間壁に灯影や秋の夜半に

10月5日

△神武天皇日向御發航（紀元前六）△元の大軍對馬に來襲（文永一一）△南北兩朝統一（元中元）△平町營大運動場計劃圖書館必要叫ばる頻り（昭和九）

その日〱

○

ゆふべの雨でぞつくり熟れづいたいちゞくの實に、葉をもれる日がさしてゐる

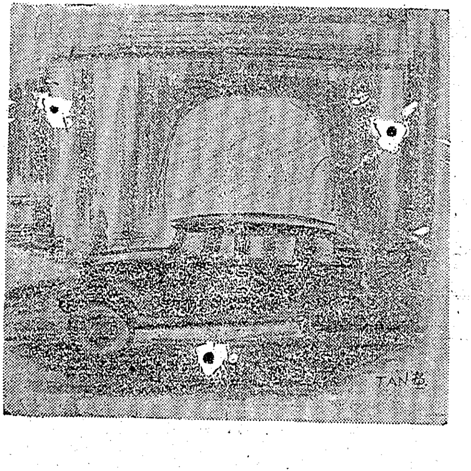
小說

誰が殺したか

(139)

水谷準作
龍造寺謄畫

第三の殺人（十二）



暖くなつたかと思ふと、急に冷々と身をさす樣な雨が降つたりどんなに春を待つ人々の心を焦立たせたか分らない。だが、いつか濠傍の柳が靑い芽を出し櫻の便りもちらほら人の口にのぼるやうになつた

星男爵未亡人の死はもう一月も前の出來事である。くすぐる樣な春の氣勢に人々は漸くあの血みどろな夫人の死樣や、それに關聯して杉野前支那公使のトランク詰死體のことなどを忘却の彼方に追やらうとしてゐたが、それはたゞ單に春のせゐばかりではない。鬼警部赤城探偵が骨肉を削る思ひで日夜活動したに拘はらず、この二つの事件は依然として謎のまゝに殘されてたゞの一歩も進展しなかつたら、物にうみ易い世人が赤城探偵の無能を嘲笑ひ、さういふ煽情的な事件が實際に起つたかどうかさへも頭から否定するやうな傾きになつてしまつたのだ

然らば杉野前公使の死體をトランクに詰込んで、自分の部屋に隱して置いた獅子内弘はどうしたのか？

この怪人物の行方は、相變らずその後杳として不明である。無人の部屋には徒らに眼に見えぬ塵埃が積つて行くばかりであつた

然らば杉野未亡人春枝は何をしてゐるか？

未亡人と云ふには、あまりにも年若く、且美しい女性

彼女は富士野龍太郎の紹介で、孤子となつた弓子を引取つて、一緒に暮してゐた

然らば、當の富士野龍太郎は？淳一の死體が鎌倉長谷の海岸に打上り彼は愛兒殺しの犯人として一度は拘引されたけれど、證據不充分で放免され、そのまゝ東京の一ホテルに居殘つて商賣上の用事に忙しかつた

では星男爵未亡人を殺したのは矢張富士野淳一だつたのか？

それはとも角今迄噂にばかりのぼつてゐた血笑鬼が突如として大東京の眞中に出現した

日比谷ホテルといふのは數ある東京のホテルでは最も新しく、最も善美を凝した五層の建物で、日比谷公園近くにその桃色の巨體をどつしり据えてゐた。觀光局あたりが特に力瘤を入れただけあつて外人の客が殆ど三分の二を占て居り、その合廊下に行つて見ると宛然日本を遠く離れた何處か殖民地の一風景を思はせる程種々異つた人種が思ひ思ひに肱掛椅子にもたれて辭高に話こんでゐるのが見える

國では飮めないカクテルの盃を並べて、トランプに打興ずる亞米利加人、默念と聖者の面持で椅子に依る印度の商人、葉卷をくゆらしながらぽつりぽつり話しこんでゐる英國の老紳士二人、手眞似交りで何か怒つてでもゐるやうな獨逸人、饒舌な支那人、等、など、など、仔細に見物してゐたら、それは全く飽きない見世物に違ひなかつた

併し、それらの人も、夜の十時をすぎ十一時ともなると、いつか自然に姿を隱して、廣い合廊下には殆ど人影も見當らなくなつた

玄關に立つてゐるボーイが、思はず目に手をやつて生欠伸を噛殺した時である自動車の劇しい前燈がまともにボーイの顏を照したかと思ふと、パット消れた。客の御歸りである

舊 土曜 新
九 甲寅 十
月 佛滅 月
八 執 五
日 胃宿 日

諸判定應需
東京市本郷區湯島四丁目五番地
高島易斷總本部　神誠館

▲一白　安いつに過ぐれば苦境におちいる事あり病難注意▲二黑　萬事進むに吉にて富貴榮達意の如くなる日▲三碧　自重せざれば萬事襲ひ來んとするきけん日▲五黃　有力者に見離さる事あり同情を失はぬ事▲六白　こつ苦勉勵は大事をも通達すべしざせつするな▲七赤　得る所少なきもしんぼうして常業に親しむが吉▲八白　事業の擴張新事の計畫何れも發展する吉日▲九紫　親その別なく迷惑となる事を持込まるべし

五日（小名濱測候所調査）
日出 五、三四　月出後 〇、二九
日没 五、一七　月没後 一〇、一八
滿潮 前二、二〇 後一、一五　干潮 前二、〇五 後七、〇五

廣告

平町田町。
井坂醫院
電話 五五九番

磐城代表的の土產品
山。靈峰羊羹　里。柿羊羹
海。のり羊羹　各一本 金十錢
右美麗三本箱入 特價三十錢
御旅のお出入に便宜な手頃のお土產品です
小賣御希望の方お申越下さい。
製造發賣元　小川郷驛前　平屋賣店

洋服大特賣
男女用服豊富に取揃
洋服 高島屋
注文並に既製品
高島屋洋服店
平町二丁目 電話三八六番

花柳病の豫防と治療

「花柳病の撲滅」を提唱す
陽春期を迎へ
徹底的治療が肝要

一、花柳病發生に時期はないが、生物すべてが生殖慾を深くする陽春期が矢張り一番感染率が多く、また一度快癒した人でも徹底的な治療を怠るために再發し、人生にとつて樂しかる可き靑花の春も、花柳病者にとつては決して愉快なものではなく、人生の幸福感を自覺すればする譯、その雰圍氣から退いて一人悄然と暗夜に立つ傷さを產み種々の悲劇に誘はれる多くはこの春である。
二、花柳病の怖しさに就いては何人もこれを熟知して居る通り、この疾病故に最大恥辱である廢人となつたり、また幸福なる家庭を破壞したり、前途ある身を自ら死を選び花柳病から起る悲劇は益々殖へる一方で、國家のため洵に慨嘆にたへない。
三、本社ではこの怖しい亡國病を徹底的に撲滅せんがため、左記本社製品の全國的大賣出しを行ふことゝなつた。我社の花柳病藥は長き歴史と、最新の學理に基く研究によつて完成されたる優秀な藥であることは一般の認むるところである。
四、近時花柳病藥の種類多く、營利主義の安心ならぬ賣藥が市井に溢れて居るが、こうした藥に依つては決して快復を望むことが出來ないばかりでなく、むしろ病勢を惡化させるのみである。
五、花柳病の克服も信用ある藥の服用に依つてのみ希望は達せられる。あれこれと迷はずに「クスリはホシ」と決め、亡國病の治療と豫防に萬全を期していただきたい。

花柳病豫防藥
ホシシクロ　.10　.20　.50　1.00　2.00
豫防藥の元祖とも云ふべく世に「シクロ」の名を稱えての類似品あり
これにてもその眞價を知らるべし

痳病内服藥
ホシゴノール　1.00　3.00　5.00
痳病はゴノコッケン菌の感染による恐るべき病疾にて、痳毒が眼に入ると痳毒性結膜炎（風眼）を起して失明に至る程である。ホシゴノールは尿の分解を抑制してゴノコッケン菌の繁殖を制止し又尿に防腐消毒の力を附與せしめ以つて尿道の炎症を治癒して治病の目的を達するのである。
主治効能―急性、慢性の淋病、消渇、膀胱炎、膀胱カタル

痳病注入藥
ホシズルファーミン　.50
本劑は我社の宮本博士の創製にかゝるコロイド狀銀に殺菌力の強大なるヨードを化合せしめた獨特なるものにて無痛の注入藥である。
主治効能―急性の痳病、尿道炎、膣炎、膣部糜爛

黴毒内服藥
ホシサヨリン　1.00　3.00　5.00
所謂、潜伏期、第一、第二、第三期の四期に分つ事は周知の事である、そして本病の恐ろしさは今こゝに永々しく説明するを要しないであらう、本劑は病菌を速に體外に排泄すると共に健全なる細胞を新生し強壯ならしむる作用を持つものにしてヨードを主劑とする一種の優良藥なり。
主治効能―黴毒、瘡毒、痳毒、痔毒、黴毒性横痃、黴毒性ロイマチス

花柳病豫防藥
ホシペッセル　1.00
本劑は花柳病豫防藥にして、キニーネ鹽類及びオルト酸化ヒノリン硫酸物を主劑となし微生物に對する死滅力が強烈である、然して人體には無害である。

全國ホシチエンストアーにてお求め下さい

「花柳病の豫防と治療法」に關する小冊子あり
ホシチエンストアに無き時は本社營業部宛御申込あれ無料にて選時發附す

クスリはホシ

東京　星製藥株式會社

ホシ藥舖　平町三丁目　電話四二九番
ホシチエンストアー平支部

無意味な支出を避け 一意經濟更生に直進

昨年度指定の平窪村では

詰らぬ舊慣故俗の廢止を申合す

昨年度經濟更生村に指定された平窪村では草野村長以下委員間で着々大綱を樹立してゐたが愈々決定したので此程小學校に委員會を開き種々協議したが更生の先決として左記生活改善事項の實行を申し合せたと

一時間勵行の表彰、婚儀費用は年收の二割、招待客は親戚に限り引物は一品、簞笥は一棹、手傳謝禮は三十錢以內、節句、氏神祭の贈答廢止、入退學の贈物廢止、入退兵には停車場迄歡送迎、入退營者の歡送旗は一旒、退營者は土產物廢止、年賀廢止、一月元旦神社に會同、新年の名刺交換、其他年始、中元、歳暮、葬祭、佛事法要の節約、葬式に酒の饗應廢止、香奠は五十錢以內、新盆の提灯贈物廢止、重複虛禮の廢止、他町村の一般寄附は絶對に受けず緊縮節約により剩餘金は出來得る限り社寺小學校基本金等に寄附、鳥小屋廢止等々

七分二厘減豫想

昨年同樣冷濕に祟られた

本郡下の米作

本郡の米作第一回豫想收穫高は二日午後縣廳統計課から全縣の分と併せ發表されたが今年も天候不順のため昨年同樣の凶作を憂されてゐる場合とて仲々興味の豫想統計である、之によると

水稻十四萬千八百八十七石 陸稻千七百十四石

合計十四萬一千九百六十一石

で前年に比し七分二厘の減少を示してゐる

町村事務指導講習

平、植田の二ケ所に開く

縣地方課では左の日割で平植田二ヶ所に町村事務指導會を開催する

十四日平町(平 飯野 夏井 高久 豊間 鹿島 內鄕 好間 赤井 永戸村組合 神谷 草野 大浦 四倉 大野 平窪 上小川村組合 川前 澤渡村組合)

十三日植田町(植田 泉 渡邊 山田 錦 勿來 上遠野 入遠野 川部 田人村組合 江名 小名濱 玉川 磐崎 湯本)

落調依然 昨日の取引

高六十一圓十錢

最近の四倉繭市況

濱相場の低落が影響して落調を辿つてゐる四倉市場昨三日の取引は出廻五五三貫相場は依然落調を示して高六十一圓十錢 安五四圓 駒五七圓六〇錢 掛目四七 尙昨三日迄の取引は出廻四千百四貫價額二萬五千百四十八圓であると

。。。。。平町出納檢査。 平町の十年度臨時出納檢査は來る八日午前十時から執行する

。。。。。從軍記章傳達 滿洲事變に活躍した平町舊城跡野口武男、堂の前遠藤一郎、五丁目若松豐の三君は七日町役場から從軍記章を贈らる

鮫川江改修費協議

石城鮫川江水利組合では七日午前十時から平團体事務所に臨時總會を開き凶作應急施設工事として小名濱、玉川兩町村水路改修(工費二萬六千圓)起工に關し協議すると

郷軍へ寄附者表彰

平町長青沼錄太郎氏及玉川村青年學校は居村郷軍分會の基本金に寄附した廉により郷軍會長鈴木莊六大將より四日付謝狀を贈呈された

平町から躍進博へ出陣

平町では明年三月二十五日から岐阜市る開かれる同市主催躍進日本大博覽會に出品勸誘を受け產業館に海產物加工品、木工、玩具、ムシカマド等の五間分を出陳する

。。。。。上遠野村長更迭 上遠野村長荒川熊三氏は過般辭職後任は助役椨田末次郎氏が昇任した

荒木十畝畫伯來郡

舊師植竹氏展墓の上

數日間地方の勝地を探る

日本畫壇の巨匠帝國美術院會員荒木十畝畫伯は一昨二日來平、昨三日縣社子鍬倉神社及大越中佐銅像を參拜更に胡摩澤長源寺なる畫伯が長崎縣大村中學校時代の恩師元磐中校長植竹源太郎氏の墓所跡(本墓所は鶴見總持寺)に詣で四倉に一泊玉川村小瀧鑛泉等に數日間逗留の筈であると

街は慌だし

前調査に較べた

平町の交通量

國勢調査に際し行はれた平土木監督所の管內主要路線十六ヶ所の交通量調査は昨三日を以て終了した、平町地內に於ける前回(一昨年度調査)對比表左の如く地方の發展を物語る乘合貨物の增加振りは物凄く自動車の合計千二百二臺で前回の七百二十二臺に比しザッ!と七割の激增、自轉車も約三割を增してそれに反し步行者が些か減つてゐる、該調査は今後各種道路の改修運動上重要な參考資料である

	十年	八年
步行	四、九三二	五、六〇一
牛馬	五	一
人力	三	七
自轉車	四、六四六	三、四五五
荷車	三五	二三
牛馬車	六九	七六
オートバイ	六〇	一四
乘合	二八八	四一
乘用	五七〇	五三三
貨物	三四四	一四八

新京から

本朝ハルピンより飛行機にて新京に歸宿仕り候、明日は湯崗子に參るべく候

夕日野果てに赤く、友を憶ふやそゞろ寒

新京ヤマトホテルにて

渡邊寬一郎

暴風雨と闘つて 海上の遭難者を救ふ

大時化に隱れた美談

過般の大時化で小名濱港に咲いた美談一つ——大暴風雨の去る二十六日午前四時頃、開北、敦賀兩淺渫船が沈沒直後の大波の間を泳ぎ拔いたが終に假死の狀態に陷つてゐた男あるを船引上げ中の同町定西西崎重太郎竹町鈴木岱助、小原定次郎の三氏が發見、危險を冒して辛じて救助した、右は內務省築港事務所雇謝敷宗質(三三)で直に同町草野病院に收容應急手當の結果蘇生した、此の勇敢な三氏の行爲に感じ福來築港事務所長は二日午後三氏自宅を訪問懇篤な謝詞をのべた、尙三氏は近く人命救助で表彰されると

秋の跳躍

平第二

今四日午前八時から同校校庭に運動會開催、折柄の晴天に惠まれ全校千二百餘の女兒潑溂たる健康色揚土臺上を彩つた

。。第三校 明後六日の筈だつたが翌七日に變更

磐城高女 今四日全校生約八百名好間村上ノ原方面に遠足運動會を行つた

。。。。。平商辯論音樂會 平商辯論部では來る十五日頃音樂部と合同秋季大會を開く

牛月に二人を傷く

江名の過失運轉手

其の筋から嚴重戒告

江名町大字江名字北町一一七佐藤文治郎方運轉手安達郡戸澤村生れ武藤泰(三二)は四日午前六時頃貨物八八四號を運轉し豐間村沼の內地內縣道を疾走中折柄自轉車を飛ばして來た高久村大字神谷作字鶴ヶ井清水一鈴木七之助(四七)をすれちがひさま轢き倒し右腕骨折並に內臟、顏面に瀕死の重傷を負はせ、被害者は目下平町上田病院に入院加療中だが生命危篤

尙運轉手武藤は去月三十日も運轉中飯野村大字中山字薬谷縣道で同樣リヤカーをひいて平町から歸り途の同村農小野フサ(五三)に衝突、右胸部に全治三週間の傷害を負はせたばかりで再度の過失に今四日同署に召喚され嚴重說諭された

平窪雜信

。。。。合格者抽籤 今年度壯丁甲種合格者は抽籤の結果左の如く決定

步兵—草野源吾 鈴木勝榮 小室正行 工兵—木田源一郎 機關兵—坂本宮夫 野砲兵—松本儀平男 步兵—籤外根本敏夫

。。。。助成金交付 村農會では九年度中の各實行組合事業中優良十一組に助成金を交付

。。。。苗代品評會 此程本年度苗代品評會を開き優良七組合に褒賞を授與した

。。。。更生祈願祭 六日の經濟更生記念日には同村澤村公墓前で祈願祭を執行

。。。。各種運動會 小川方部三郷青年陸上競技會は來る二十四日午後一時より小川小學校庭で開催、競技種目十一種、尙ほ小學校でも十一日午前八時から校庭で開催

投槍

投書歡迎

。。。。。。再募集また可なり

◇磐新募集の 七夕祭歌詞に就ては、從來のそれに比し一段と水準が高められた——とあつた某選者曩日の言によつて、今回こそ恐らく天下に呼稱し得る珠玉の名篇が得られるものと大に發表の日を樂み待つた

◇其が測らず、も再募集の結果を見た事は、吾れ人と共に一種の失望を禁じ得ないが、それが後々迄も殘る平町の七夕歌詞として恥かしからぬものを獲る爲とあらばお互としても寧ろ賛成すべきではないか

◇若夫れ主催 側が、期間內に集つた幾つかの作に對し、頗る意に滿たぬ乍ら所謂責任解除の意味から、生硬未熟な何篇かを入選と決定發表し、旋てそれが音譜化されて大衆の審美的聽覺を驚かす事になつたらどうあらうか

◇自分は曾て いとも華やかに募集された某々歌詞にして現在往々秋の扇の如く忘れられんとしつゝある幾つかに淡い幻滅を感じてゐる一人である。磐新今回の再募集が鄕土に忠ならんとする意慾に外ならない事を肯定せざるを得ない

◇敢てレコー デングする爲に歌詞を求むるに非ずして優秀な歌詞ある爲の音譜化計劃であらねばならない、之の觀點を外れての歌詞募集と之が發表は、蓋し淺薄低級な或種の虛榮と醜惡な射倖に瀆された無意味な事業たるに止るであらう

(舊城址隱棲詩人)

郷土の未發史跡を探る

鮎泳ぐ鮫川河畔にて(歸省餘錄)

勿來生

21

さなきだに平泉文化の南漸を有力に片影して此より更に鎌倉に止まりたる以來星霜平安末を越えて鎌倉、江戸等の長き年月を過ぎ、遂に現代に至つて斯くの如き稀世の建築美を眼前に容易く見られるに至つたのは一に、聖世の恩召に因りて藤原式てふ遺物を、我が國の建築美術史上に誇るべく乃ち國家的に之を保傳せしめ賜ふ大御心より、二度び斯くも鉅費を下附せられて今復た修理を茲は終了したのに由るからである

赤土氏と願成寺惣代某は徐々に本堂の前扇を開かれて予を招じ入れた。予は無言の儘に、內壇安置の五物体に近き、跪拜して目視すること約二十分、尋いで堂內全般に亘りて詳査すること三十分ばかり費した(予は本堂內を拜觀すること、昭和二年一回、本年二回都合三度に及ぶ)斯くして與榮師、外寺惣代等の人々に湯川(一名白水川)の橋まで見送られ、猶ほ之の途すがら本堂に對する保存會組織の方法や、今後の維持策などを協議に與かり、別れを告げたのは凡そ四時である。折から小雨來り、予の旅愁を遐かに深からしめた

湯川直南岳嶺、阿彌陀堂と北南に對面する一案が、卽ち俗傳の白水館址であり次代の高野山、其の麓地が遍照院跡である。此の白水館の創始、變遷に就いては充分な研究を要すべきで、從來の傳說や近世末の漢學者等が俗志で言はせると、岩城氏初期の居城は、異口同音的に孰れも高久か白土か大館と定める。併し白水館の建立所以、並に白水館の存在、附近の地理、寺社の關係から引きくるめて想察すると、初祖又は次期の岩城氏が一居は、當然白水にも當らなければ理窟が合はぬ。是れに就いては、本稿を終つてから、白水堂の續論に於いて詳述するゆゑ暫く待たれたい

待たせて置いた自動車に搭乘し、省線を橫に突破して堀扱の險を昇降疾走し、左に復々俗稱の梵天山を眺めた

一体此のボンデン山とは可成り湯本の人々には記憶される山で、又湯本往來の小目標山でもあつたらう。梵天の語源は佛典から來したのであらうが後ち目標棒のことを梵天棒とか竹を以てすれば梵天竹といふこと近古前後からの通語である

曲者猛々しく 舊主の名を騙る

平署檢擧の十犯男

既報—去る廿七日午前一時頃小名濱町吳服商遠藤清次郞方からレヂスターを竊取中味が少いので稼ぎ直し中捕はれた自稱相馬郡高平村生れ末永明(四四)の手口が大膽を極め前科者らしいので平署では縣刑事課、警視廳に指紋照會した結果、末永とは眞赤な僞りで本籍宮城縣亘理郡坂本村生れ竊盜前科十犯千尋庄八(四四)で去る四月仙台刑務所を出獄して各地を荒し廻つたしたゝか

玉川新村長

宮內氏に決定

玉川村では既報の通り今四日午前九時から村長選擧の村會を開いたが最初から複雜な空氣漂ひ容易に拾收つかぬ爲一と先づ休議午後再開出席議員七名にて滿場一致助役宮內久枝の昇格に決定した

。。宮夫 去る大正六年中ミヨと云ふ情酌と共に相馬郡きつての資產家たる元郡會議員末永明方の養蠶男に雇はれ中同家の土藏から白米、衣類を竊取して投獄され

今回捕はれた困しまぎれに元の雇主の名を引き出したものと判明、郡內にも餘罪ある見込みで目下追究中

。。鼠賊。 四日午前五時頃平町南町を徘徊中の不審男を平署が調べると信夫郡野田村佐藤順三(三七)と稱し前夜鹿島村大字矢田高橋登方に忍び込み現金一圓五十錢を竊取した外十數件の餘罪を自供したので取調べ中

平區略式一束

。傷害。 湯本町八仙坑夫吉成淸次(三八)は六月二十五日夜泥醉して朋輩三名と共に同町三函地內を徘徊中坑夫合宿所より無斷行方を晦した元朋輩添島信淸(三二)に出會ひ其の非をなじつた上サイダー瓶を揮つて毆打全治四週間の傷害を與へ罰金三十圓。又內鄕村宮字代炭鑛雜夫石井權太郞(四七)は七月十八日午後三時頃隣家の本田淸方で會飮の末口論喧嘩となり近隣の石川子之太郞に仲裁されたが仲裁振りが癪だと同人を自宅に引摺り歸り菜切庖丁で斬り付け頭部に全治二週間の切創を與へ罰金二十圓

。賭博。 湯本町三函居畜業內鄕村御臺境生れ草野千代吉(三六)双葉郡新山町廣町齒科技工賭博前科三犯川崎菊藏(四四)の兩名は六月九日落ち合つた浪江町權現堂三文店入江ヨシ方で後先十丹博奕を開張、川崎は二百圓、草野は百圓の各罰金。又大浦村大森字大仁田四〇鳶職片寄源一(五二)四倉町新町雜貨商鈴木寅吉(四六)同町志津馬車輓業鈴木兵五郎(五五)の三名は六月二日寅吉方で『馬鹿メクリ』博奕を開張したが源一は四十圓、寅吉、兵五郞兩名は各六十圓の罰金

。怠慢。 小名濱町定西古物商阿部儀一(四八)は六月十六日木村忠男と自稱する不詳男から鉋金屑を買受け罰金五圓、同町船引場古物商芳賀德藏(四八)は記帳怠慢と不詳男から買受け罰金六圓

。過傷。 四倉町本町自動車運轉手平町長橋町生れ奥山正明(三五)は八月十八日夕刻トラックを運轉して廣野方面から四倉町志津地內國道を疾走中不注意から自轉車で同方向に進行する同町鈴木詮太郎(一四)に追突全治一週間の傷害を與へ罰金二十圓。又双葉郡廣野村夕筋字內四〇鍛冶職松本高平(三八)は今春同村某自動車部に雇はれ中一月四日トラックを運轉して長塚村字町地內國道を疾走中橫道から自轉車で進行して來た同村役場給仕井戸川俊夫(一八)に追突治療三日間の傷害を與へ罰金二十圓。何れも此程平區より略式命令された

耳鼻咽喉科專門
平町田町(電六九一)
病室完備
自炊ノ便アリ
山內醫院
醫學士 山內亨吉

お醬油は……ヤマフル
鹽屋
山崎合名會社
石城郡平町
電話(營業部一〇番 本店二七番)
味噌 醬油
たひら正宗
鰹節 食料品
明治生命磐城代理店 山崎與三郎

品質第一
電話二六八番
平牛乳舍
平町・九品寺前

御會葬御禮
十月四日
堀江正茂